



大阪会場(CIVI研修センター新大阪東)では133名が受講した

全国8会場700名以上が受講！ 初年度資格認定基礎講習全日程終了

栄養部門の新資格「栄養経営士」が本格始動！ 10年後に生き残る管理栄養士への第二歩を踏み出す！

一般社団法人日本栄養経営実践協会(代表理事宮澤靖・社会医療法人近森病院臨床栄養部部長)は、10月12日、東京では2度目となる「栄養経営士」資格認定基礎講習を開催した。これにより、本年4月から始まった全国8会場での基礎講習の全日程が終了。全国で709名の修了生が誕生した。

栄養経営の概念を理解するための 第一歩となる資格認定基礎講習

「栄養経営士」は、2014年5月に設立された一般社団法人日本栄養経営実践協会(代表理事宮澤靖・社会医療法人近森病院臨床栄養部部長)が認定する、新しい資格として誕生した。当協会では、「栄養経営士」を「栄養管理のチームマネジメン

トに関する臨床スキル、コミュニケーションスキル、リスクマネジメント、コンプライアンス、人材育成など多岐にわたる知識を習得し、かつ、実務の現場において広くその知識・経験を発揮できる、「栄養管理の経営を担う専門職」と定義し、これから

の栄養分野を担っていく重要な人材」と位置づけている。

「栄養経営士」となるためには、当協会が実施される資格認定試験を受験し合格する必要がある。しかし、単に試験を受けて合格すれば名乗れるという資格では意味がなく、「栄養経営」という新しい概念を理解してもらうことが重要であるという考えに基づき、試験の前に「栄養経営」とは何か、「栄養経営士」とは何を指すのかを学ぶ場を提供している。それが「栄養経営士」資格認定基礎講習(以下「基礎講習」)である。

今年度の基礎講習は当協会代表理事の宮澤靖氏が講師を務める。「栄養経営とは何か」をテーマとしたオリエンテーションの後、「栄養経営士に必要な能力と



CT画像を見ながら解説を行う宮澤靖当協会代表理事

して掲げている6つの能力について講義を行うというスタイルで実施。特に最後に行われる「症例検討」では、受講生からの質問が多く時間内に終わらない会場も見られるなど、関心の高さが伺えた。

4月29日に東京で第1回目を開催、その後仙台・名古屋・大阪・金沢・福岡・札幌で順次開催し、10月12日に再び東京で実施、初年度全8回の基礎講習で延べ762名の申し込みがあり、709名が受講・修了した。

マネジメント力が求められる 30～40歳代リーダー層から高い関心

受講した709名の内訳をみると、年齢別では30歳～39歳が最も多く273人(38・5%)となっており、次いで40歳～49歳が211人(29・8%)、30歳～49歳で全体の7割弱を占めるという結果になった(図1)。30歳代40歳代は現場のリーダー層や管理者クラスが多く、業務においても「マネジメント」を意識することが多い年齢層だと考えられる。それまで「マネジメント」

に関する学習などを受けたことがなく、現場で何をすればよいかわからず困っているという人も少なくなかったのではないだろうか。その解決策を見出したというニーズに、栄養経営士のプログラムが合致したのだと考えられる。今後、当協会では栄養経営士を対象とした研修会等を通して「マネジメント」を学ぶ機会を設けていく予定だ。

また受講生を所属別

図1 基礎講習受講者年齢別構成

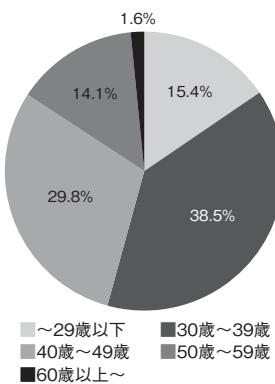
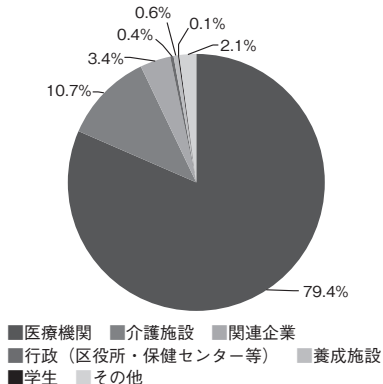


図2 基礎講習受講者所属別構成



に見てみると、医療機関に所属する管理栄養士がもっとも多く563名(79・4%)を占めている。それに次ぐのは介護施設等に勤務する管理栄養士が76名(10・7%)、関連企業の管理栄養士24名(3・4%)となっている(図2)。これは「栄養経営士」の役割が、医療機関の栄養部門においてイメージしやすいということが理由と考えられる。しかし、現在では地域における医療・介護連携の必要性が叫ばれ、地域包括ケアシステムにおいては企業等も含め、さまざまなステークホルダーが一体となっていくことが求められている。今後、医療機関以外にも資格の有用性をアピールしていくことが重要となってくるだろう。

誕生! 栄養経営サポーター

栄養経営士にはない広い視野を活かして、 栄養分野のさらなる活性化に貢献!

管理栄養士だけでは持つことが難しい、「外の視点」を持つ栄養経営サポーター(以下、サポーター)の担う役割は、栄養経営士の活動が“コップの中の嵐”にならないために非常に重要です。今後、栄養経営士とともに幅広い活躍が期待されるサポーター。今号では新たに誕生した4名のサポーターの方に、取得された理由や今後の展望等について伺いました。

病棟で輝くことができる 栄養経営士の力になりたい



株式会社ファイン
医療食品部 課長代理
間 直 隆

当社は医療用食品や健康食品を販売しており、さまざまな病院の栄養室へ出入りさせていただくことも多くあります。たまたま協会の代表理事である宮澤靖先生とお話のなかで、臨床分野において活躍のできる管理栄養士の必要性を教えてくださいました。管理栄養士は病院での評価が非常に難しい職種だと思いますが、「臨床分野に詳しくなれば病院内での管理栄養士の立場も向上できる」という宮澤先生の言葉に感銘を受け、今回、栄養経営サポーターをさせていただこうと決意しました。栄養経営サポーターとなったからには、栄養経営士の普及活動に努めたいと考えております。まずはサポーターの表記を入れた名刺をお配りし、お会いする人すべてに「これはどういった資格ですか」といった興味を持ってもらうことが初めの一歩、そこから会話を広げていきたいと思います。

ある管理栄養士さんから「今後、看護師さんが栄養管理まで手掛けるようになれば私たちは病院に必要とされなくなってしまうのでは」という冗談半分の不安を言われたことがあります。そうならないためにも、栄養経営士という資格を広め、少しでも管理栄養士の方のお力になればという思いです。

宮澤先生は、管理栄養士が活躍する場は栄養室ではなく病棟だ、と言われていました。日々の業務は大変お忙しいでしょうが、ぜひこの資格を取得し病棟で輝くことのできる管理栄養士＝栄養経営士となっていただきたいと思います。

病棟での他職種とのつながりや 他施設とのつながりを強めたい



医療法人社団明生会セントラル病院
栄養部
磯貝ひろみ

栄養経営士資格認定基礎講習を受講したのは、当院の院長である安藤高朗先生(日本医療経営実践協会関東支部支部長)に勤めていただいたことがきっかけです。他の管理栄養士と一緒に、私も「勉強のため」と思って受講することにしたのですが、栄養経営士という資格の存在をまったく知りませんでしたし、「マネジメントは経営者にしか関係がないのでは」という先入観を抱きながら臨んだ講習でした。しかし、実際に講習で代表理事の宮澤靖先生のお話を聞いてみると、それが大きな間違いだったと気づきました。「管理栄養士も病院の経営に貢献できる」という事実を目の当たりにし、驚くとともに強心を動かされました。

これまでは栄養士として食料を整理したり、食材の発注をしたり、主に事務作業を行ってききました。しかし今後は管理栄養士として、他職種と連携し、病院経営に貢献していかなければなりません。そのためには、それを行える体制、つまり発言できるような環境が必要です。まずは病棟を自分の居場所にするのが第一歩だと考え、現在、病棟で患者さんや他職種とのやりとりを積極的に行っているところです。

栄養経営サポーターとして、マネジメントや病態の知識を深めることはもちろんですが、勉強会などを通じてネットワークが広がることも期待しています。今後は栄養経営サポーターを軸にして、横のつながりを増やしていきたいと思います。

「口から食べる」をめざす仲間として 栄養経営士と一緒に歩みたい



医療法人社団爽玄会碑文谷病院
リハビリテーション科 言語聴覚士
前 中 拓 也

私は言語聴覚士(以下、ST)という仕事柄、患者にとって最善の経口摂取とは何かを考えながら、日々仕事に励んでいます。STと管理栄養士はアプローチの違いはありますが、「口から食べて退院することを常に意識する」という目標は同じですので、食形態の調整や栄養補助食品の利用方法など、必要な時にいつでも連携をとる必要があります。お互いが持つ情報・知識の共有のために何が必要かと考えていたな

かで栄養経営士という存在を知り、一緒に活動していきたいという思いで栄養経営サポーターの取得を決意しました。

今後は栄養経営サポーターとして、STとしての知識と経験を活かした中長期的な目標設定を通して、多職種連携を実践していこうと考えています。患者の状態を見極めた食形態の評価や合併症の発症リスク軽減を図り、医療費や人件費の削減、医療全体の質の向上につなげるほか、積極的なリハビリ介入によってADLやQOLの改善もめざすといったように、マネジメントの視点を持つことが必要でしょう。

現在、在宅の現場でも食事介助や栄養療法が必要な人が増えています。こうした方向けの講習会などを栄養経営士のみならずと共に行っていければと思っています。特にSTの場合は栄養に関する専門家ではありませんので、褥瘡、排便コントロールといった悩みを抱える患者向けの栄養療法について、いろいろと学んでいきたいです。

栄養経営士の力になり、良きアドバイスを するための知識を得たい



アルフレッサ株式会社
カスタマーサポート部 主任
大 谷 剛 史

私は病院機能評価受審支援のためのコンサルタント業務を行っており、病院の栄養部門に関わることがありますが、管理栄養士ではないため栄養部門に関する詳しいことは分からず、適切な助言等が行えていないのかどうか疑問を抱えていました。そのようなときにこの協会のことを知り、少しでも管理栄養士の力になり、良きアドバイスをするための知識を得たいとの思いから栄養経営サポーターを取得しました。

今後の目標としては、『栄養経営士テキスト』(日本医療企画)を熟読させていただき、知識の向上に努めていきたいと思います。それに加え、今後、地域で開催されていく研究会の場などに参加し、管理栄養士の方々からの生の声を聞くことで、栄養の現場における管理栄養士の抱える現状と課題、またそれらに対してどのように取り組んでいくのかということを知りたいと思っています。

日本栄養経営実践協会、栄養経営士の皆様方への期待としては、現状では管理栄養士が病棟業務をし、多職種カンファレンスに参加していることがまだまだ少ないように思います。病院の栄養部門が積極的に多職種連携に関わり、病棟業務ができるよう、管理栄養士としてプロの栄養アドバイスができるように現場を改善することを期待しています。

私もコンサルタントとして、栄養経営サポーターとして病院の栄養部門の皆様方の参考となるようなアドバイスができるよう努力してまいります。

一般社団法人 日本栄養経営実践協会 主催

2016年度試験日程決定!

第2回 「栄養経営士」2016年11月20日(日) 資格認定試験

■受験料: 8,000円(税込)
■試験会場(予定): 札幌・仙台・東京・金沢・名古屋・大阪・福岡
■受験資格: 管理栄養士(実務経験2年以上)かつ「栄養経営士」資格認定基礎講習修了者

試験に関する
お問い合わせ・
資料請求はウェブで

<http://nutrition-management.jp/>

または

検索



一般社団法人 日本栄養経営実践協会
The Japan Association for Nutritional Management Practice

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町17 もとみやビル3F
TEL: 03-5289-7021 FAX: 03-5289-7022

法人賛助会員紹介 File2 ネスレ日本株式会社 ネスレ ヘルスサイエンス カンパニー

栄養部門が見直される今、 管理栄養士の枠を超えた活躍を

2011年、ネスレは「ネスレ ヘルスサイエンス」を設立した。エビデンスに基づく製品やサービスの提供を通して、「栄養の力」によって医療・介護現場の未来に貢献することを目的としている。栄養・健康・ウェルネス企業として歴史あるネスレの強みを基盤に、より「臨床栄養」に特化し、「科学的根拠に基づき個人化された」栄養面でのソリューションの提供を行う同社は、栄養分野の可能性をどのように捉えているのか、栄養経営士の担うべき役割は何なのか、ネスレ日本株式会社／ネスレ ヘルスサイエンス カンパニー・カンパニープレジデントの中島昭広氏にお話を伺った。

これまでの医療システムのあり方を 栄養という分野から変えていく

現在、高齢者の増加に伴う慢性疾患患者の増加により、社会保障の分野において医療費がどんどん高騰しています。これは日本だけではなく先進国すべてに共通する課題であり、各国ともその解決法を模索しています。しかし、ことさら日本においては、今の医療システムを続ける限り、この課題を解決することは困難でしょう。日本の医療システムというのは、病気になった方が治療を受け、手術をして、投薬をして、という対症療法的なシステムになっています。これでは慢性疾患の患者が増えれば増えるほど治療件数も増え、医療費も青天井に高騰してしまう、歯止めが効かないシステムになっているのです。

当社では、これまで高齢者に対する簡易栄養状態評価ツールであるMNA[®] (Mini Nutritional Assessment) や、嚥下機能の評価ツールEAT-10などの開発を通して、「早期発見」「早期介入による健康維持」「病気予防」の3つを重点的に取り組んできました。これからの新しい医療においてこの3つの要素が、不可欠な要素であると考えてきたからです。

同時に、栄養分野の研究はすさまじいスピードで進んでいます。バイオサイエンスやバイオテクノロジーといった分野が発展していくなかで、「栄養が人間の健康にどうい



ネスレ日本株式会社／ネスレ ヘルスサイエンス カンパニー・カンパニープレジデントの中島昭広氏

影響を与えるのか」ということがかなり明確になってきました。言い換えれば、栄養という側面からのアプローチにより、患者さんの健康を維持していくことができるようになったのです。このことも、これまでの医療システムのあり方を大きく変える可能性があると感じています。

時代は、「栄養の力」を求めているのです。これまで栄養に関わる仕事をしている方の地位があまり高く評価されていないのではないかと感じるのが少なくありませんでした。しかし、医療システムが大きく変わろうとしている現状を考えると、栄養部門で働いている方にとってはとても大きなチャンスが到来したと言えるのではないのでしょうか。

「栄養経営士」という資格の存在を知ったときに、栄養部門の地位、役割を高め、栄養分野の可能性を広げていく、まさにこれからの時代に必要な人材だと感じました。私たちが考えている方向性とも一致し、ぜひ協力させていただきたいと思ったのです。

マネジメントの重要性を 管理栄養士が理解することが第一歩

貴協会の宮澤靖代表理事も「マネジメントができる管理栄養士になる」ということを仰っていますが、「マネジメント」の考え方はとても面白いものだと思います。単に「患者さんの栄養を考えてサポートする」ということを超え、とても大きな意味があるのではないのでしょうか。

マネジメントというと大変難しいもののようにつけられがちですが、言い換えれば、管理栄養士の方が病院のなかで置かれている現状であるとか、医療が今抱えている問題であるとか、そうした課題をきちんと把握し、それらに基づいてビジョンを定め、そのビジョンや目標にいたるプロセスを考えながら、病院の内外の人を動かし、適切なサポートを受けながら必要な資源をしっかりと得て、課題解決に向けた作戦を実行し、成果を出していくと

企業DATA

ネスレ日本株式会社
ネスレ ヘルスサイエンス カンパニー

住 所：東京都品川区東品川2-2-20 天王洲郵船ビル20階
電 話：03-5769-6231

カンパニープレジデント：中島昭広

事業内容：飲料、食料品、菓子、ペットフード等製造・販売 等*

従業員数：約2,500人(グループ各社社員含む)*

<https://www.nestlehealthscience.jp/>

※はネスレ日本株式会社

ということなのだと思います。

宮澤代表理事も仰っていますが、「単に目先の商品価格だけを見るのではなく、先を見据えた少し長いスパンでパフォーマンスを考えていく必要がある」ということはまったくその通りだと思います。もちろん、患者さんの栄養を管理するうえで、管理栄養士の皆さんがコストを重視されることは悪いことではありません。しかし、本当はもう少し幅広く見ることにより、さまざまな病態に応じたそれぞれの栄養管理の方法があること、短期的にはコストがかかったとしても長期的に見るとそのほうが経済的なメリットがある、ということは少なくありません。こうしたことを考えられる視点を持つことが「マネジメントができる管理栄養士になる」ということであり、その人材が「栄養経営士」なのでしょう。

現場からの主体的な提案を 栄養経営士に期待したい

管理栄養士も、従来の枠組みのなかだけで仕事をするという時代ではなくなってきています。これまでは病院というなかに診療報酬という枠組みがあり、そのなかで仕事をしてきたように思います。現状を変えるためには、現場の管理栄養士が主体的に提案をして実行していくことが必要になるでしょう。そのような動きをするためには、健康と栄養に関する知識だけではなく、マネジメントに関する知識も必要になるでしょう。また、病院のなかだけではなく、地域の医療機関や介護施設などに出て行くことも必要でしょう。さらには、医療を取り巻く状況や日本全体の医療保険システムといったマクロな視点から、栄養について提案できるようなことができれば、なお素晴らしいと思います。

「栄養の力」、栄養が持つ可能性はこれからますます増えていきます。栄養経営士の資格を取られた方々が、栄養分野を大きく変えていくのだという気概を持ち、そのスキルを活かして挑戦していくことを期待しています。

管理栄養士・栄養士のための今日から使えるノウハウが満載

次世代を生き抜く管理栄養士・栄養士をめざそう

ヘルスケア・レストラン

12月号

ガイドライン改訂で今、問われる
**特集 「褥瘡栄養学」における
管理栄養士の使命**

栄養部門改善企画
ピンチはチャンス、インシデント発生原因の特定を急げ!
安全な食事提供のためのリスクマネジメント

緊急企画 第3弾
「栄養経営士」資格認定試験直前対策

11月20日
発行

ヘルスケア・レストラン 検索

●毎月20日発行 ●A4判/88ページ
●定価:1,188円(税込) ●定期購読料:14,256円(税込)

ヘルスケア・レストラン【別冊】

嚥下機能の低下した高齢者への適切な食事提供に向けた
病院・地域での取り組み

経口摂取アプローチ ハンドブック

嚥下障害と経口アプローチのすべてがわかる!
臨床現場で活躍する実践形による、
“管理栄養士が現場ですぐに実践できる”経口アプローチの解説書

患者さんの嚥下情報を
まとめて記録できる
「嚥下パスポート」付き

●編集：藤島一郎(浜松市リハビリテーション病院院長)
栢下淳(県立広島大学教授)
●体裁：A4判/224ページ ●定価：2,000円+税

お問い合わせ 株式会社日本医療企画

☎03-3256-7495

<http://www.jmp.co.jp/>



栄養経営士が知っておきたい!

栄養・食事トピックス & ニュース

栄養分野に関する最新の情報・トレンドにアンテナを張っておくのは、栄養経営士にとってとても重要なこと。知っておきたいニュースや開催されたセミナーレポートを紹介します。(出典:「ヘルスケア・レストラン」2015年11月号(日本医療企画))

TOPICS

おばあちゃんの原因

『巣鴨で「元気に食べてますか?」の声かけ運動』

9月20日(日)、チーム医療フォーラムはWAVES Cafe3「元気に食べてますか?」を巣鴨地蔵通り商店街(東京都豊島区)で開催した。WAVESとは「We Are Educators for Society」の頭文字をとった略語であり、地域高齢者の低栄養対策を支援する活動を意味し、藤田保健衛生大学医学部の東口高志教授の声かけで始まった運動である。

過去2回の同カフェでは、医療職が集まり対話が重ねられた。そして、第3回目となる今回は初めて医師や看護師、管理栄養士などの医療関係者が病院や施設から外に出て、街中で直接、市民に声かけを行なった。

会場となったのは「おばあちゃんの原因」とも呼ばれ、とげぬき地蔵で有名な高岩寺がある巣鴨。当日は医療職や市民ボランティアなどが全国から約70名集まり、おそろいのオレンジ色のTシャツを着て「元気に食べてますか?」と道行く高齢者に声かけを行った。

当日は天候も良かったため、多くの高齢者が巣鴨を行き交っていた。最初は押し売りか何かかといふかしんできた高齢者も、医療者の笑顔と元気な声かけに呼ばれ、栄養アセスメントから健康相談へと盛り上がり続けた。

会場ではふくらはぎの周囲を計る指わっかテストや握力測定、7つの設問からなる問診票などの各種ツールを用いて、高齢者の栄養アセスメントが行われた。また、賛助メーカーからの試供品を「元気に食べてますか?」トバッグ」とともに無料で配布した。

WAVESを取りまとめる東口教授は今回の取り組みのノウハウを活かし、今後は地方へ活動の場を広げていくという。

セミナーレポート

●高齢者の早期退院に向けた「栄養経営」の実践

8月9日(日)、北海道自治労会館(札幌市)でヘルスケア・レストラン特別セミナーが開催された。本セミナーは当協会の後援によるもので、急性期から回復期リハまでの「栄養経営」に基づく栄養サポートの実践について啓発するものとなった。

当日、100名以上の参加者を前に「急性期における栄養管理とマネジメントの実践」必要な絶食患者ゼロをめざす病棟業務マネジメント」のテーマで登壇した関西電力病院疾患栄養治療センターの真壁昇当協会理事は、前任の近森病院で栄養経営を実践してきた経緯を報告。患者の幸せの実現というビジョンをもったチームが適正な非経口栄養療法を実践することで1人でも多くの不要な絶食患者を減らせれば、患者を幸せにし、病院の経営に貢献でき、チームのやりがいにつながる。 「マネジメントは手法ではなく、志と和。本気の栄養サポートが日本の医療を支える。勇気をもって栄養経営実践への第一歩を踏み出してほしい」と訴えた。

ランチョンセミナー「大学病院における嚥下食アプローチの実践」では、札幌医科大学附属病院の荒川朋子氏が登壇。嚥下調整食学会分類2013の導入にあたって、PDCAサイクルに基づくマネジメントを行ったことを紹介した。なお、講演中に協賛メーカーである株式会社おぎの強化磁器の食器にマルハニチロ株式会社の嚥下食を盛り付けた試食メニューが提供された。味や香り、安全な物性に加えて、おいしさを感じさせる食器の選択も喫食意欲向上において重要な要素であること 강조했다。

教育講演では沖縄メディカル病院あがりはまクリニック院長の吉田貞太当協会理事が「高齢者の病態と栄養管理」認知症、サルコペニア・フレイルティの対応」を講演。吉田氏は、誤嚥性肺炎や転倒による骨折など、高齢者の生活機能を奪う病態のベースにサルコペニアとフレイルティ、そして認知症高齢者の摂食障害があるとし、それらが高齢者の栄養状態を増悪させる負のスパイラルにつながっていると解説。

最後に登壇した刀圭会協立病院栄養課の吉村由梨氏は、「回復期リハにおける栄養管理とマネジメントの実践」リハ栄養における目標設定と栄養管理の進め方」を講演した。吉田氏の講演を受けて吉村氏は負のスパイラルを断ち切るリハ栄養のマネジメントについて、①必要エネルギー量の算出、②体重評価、③BCAAの摂取プランという3段階の実践ステップを示した。そして吉村氏は、ファーストステップの必要エネルギー量の算出のためにはリハカンファレンスに出ることが不可欠であるが、それには栄養部門の組織改革を行うことが必須であり、約3年かかったと紹介した。しかし、リハカンファレンスに出るようになるのと病棟スタッフもリハ栄養に理解を示し、実際にBCAAなどを利用したりリハ栄養のアウトカムを示すことで、管理栄養士が病棟に不可欠な存在として認識されると話した。

最後に吉村氏は、「患者さんがよくなれば、家族も医療者も喜びます。リハ栄養の実践には皆が幸せになるという夢があります」と述べ、講演を締めくくった。

国民の栄養白書 2015-2016年版

高齢者の栄養管理と 食事が支える生きる力

加齢のリスクを減らし、寝たきり予防を実践する!

低栄養状態をいち早く見つけ、食事を見直し重症化予防を図る! 超高齢社会における個人の栄養と疾病、地域全体での高齢者への栄養支援のあり方、それらを取り巻く制度(介護保険制度)というミクロなレベルからマクロなレベルまで、高齢者の食事と栄養に関する現状と課題を俯瞰的にまとめたものです。

監修 鈴木隆雄 桜美林大学 加齢・発達研究所 所長
国立長寿医療研究センター 総長特任補佐

企画・制作 ヘルスケア総合政策研究所

●B5判/並製/本文2C/168頁 ●本体価格:4,000円+税



栄養士ダイアリー2016

栄養管理に携わるすべての専門職必携
2016年度版ダイアリー

監修 原 正俊 華学園栄養専門学校校長

●A5判/本文2C/240頁
●本体価格:2,000円+税

- 臨床現場で役立つ「今月のキーポイント」を、毎月テーマを変えて掲載
- イベントや行事食に役立つ「旬の食材&シーズンメニュー」をリニューアル
- 付録として病棟必携の「ヘルスケア・レストラン」オリジナル輸液製剤・組成早見表2016年版」を添付



お問い合わせ 株式会社日本医療企画

☎03-3256-7495 <http://www.jmp.co.jp/>